

似の音なしとは斷ず可らず、また其の義に於ても蒙古語に於て *tsuk*, *cuk* 等は一體・一部の義あれば或は「一隊之謂」と註解せらるゝ語に合するものなるかも知れず（但し之が當否に於ては今もなほ深く論ぜんとするに非ず）、其の組織に於ても遼金の虜軍と果して關係あるべきかを疑ひしが、學士は義と組織とについては前述の答解を與へられ、更に音についても余の擧げたる糺里は北監本には組里と作られれば、此の本（北監本）據るべしとせば糺と祖、俎と相通じたりとは見る可らず、而して現今本遼史の糺と作れるものは悉く虜の誤に外ならざるべし。

糺または糺の字には *kau*, *kiu*, *ku* の音こそあれ、都由切もしくは之に近似の音ありとの徵證なく、却て虜の字に此の音あるの徵證多し、隨て依然として黑韃事略の糺は原本虜に作りしを、傳寫の際先づ糺に誤り、今本遂に糺に作れるに至りしものなりと主張す。

と論ぜられたり、余は先づ北監本の記事について繁忙なる學士を煩らはし、幸に曩日の疑惑を霧散せしめ得たるに就いて深く感謝の意を表せざる可らず、然れども余はなほ學士の立脚點とせらるゝ黑韃事略の記事については、聊か學士と見解を異にせざるを得ざるを憾みとす。

「糺」字に *kau*, *kiu*, *ku* の音こそあれ、都由切または之に類似せる音なしとは、前述の如く學士の屢々論ぜらるゝ所にして此の考の下に縷々萬言を陳ねられたるものなりとす、實に康熙字典の載する所によれば此の字は廣韻に居黝切、集韻に吉酉切また擧夭切等と見え、都由切なる *kyu* の音は存せざるが如し、然れども元來 *ki*, *ki*, *ki* 等の音が一轉して *ci*, *cä*, *cö* 等の音となるは、音韻變化の上に於る極めて普通の現象にして、其の例一々枚擧に違あらず、而して支・祁・車等の文字について之を考がふれば、如何に早くよりかゝる轉訛が漢字音の上に行はれ